

くにくさだより

2010.12.15 第29号

編集・発行：安芸区阿戸町418-1 あと会広報事業部
TEL (082) 856-0222
http://www.kunikusa.or.jp/

題字 升味 美佐子様

あと会では、平成22年4月よりお地蔵さまの縁日にあたる毎月24日を「お地蔵さま参りの日」として、地域のみなさまや、くにくさをご利用者をお招きして、一緒にお参りしています。

くにくさのお地蔵さまは、江戸時代後期に

横山邸内に祀られ、以来長きに渡り地蔵の発展を標やかに見守ってこられました。このお地蔵さまは、色彩がとっても豊かで、どこか愛嬌のあるとても人懐っこい表情をしていらっ

しゃいます。私は、このお地蔵さまをぜひ一人でも多くの方に見て

横山 輝代子

いただきました。そんな折、料理研究家の中村成子先生や行者山光寺の東和空副住職、そして松田康憲阿戸町内会長様をはじめとした地域のみなさまのご協力により、お地蔵さま参りを地域のみなさまともに行うことができました。今後もお地蔵さま参りは地域の行事として続けさせていきたいと思っております。みなさんもぜひ一緒に、身近な方や地域のためにお参りにいらしてください。こちらよりお待ち申し上げます。



くにくさのお地蔵さま参り

横山 輝代子

敬老会を終えて

ふかわ・くにくさ

敬老の日には多くのご家族がおみえになりご利用者とゆっくりと過ごしていただきました。

長寿をお祝いして、お昼のお膳はお赤飯と海老フライを召し上がっていただきました。

りは・くにくさ

今年度の敬老会では、ハーモニカの演奏に合わせ合唱をし、馴染み深い名曲を聞きました。ハーモニカの音色から昔を思い出し、懐かしむことができました。またご利用者と職員がカラオケやソーラン節を発表し、会場は一体感に包まれて感涙した方がいらつ



認知症について

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなった為に様々な障害が起こり生活するうえで支障が、出ている状態(約6ヶ月以上継続)です。

認知症になると、新しい事を記憶できず、先程聞いた事さえ思い出せないのです。さらに進行すれば覚えていたはずの記憶も失われていきます。

認知症も他の病気同様早期受診、早期診断・治療は、非常に重要です。

認知症と診断されても、あわてて騒がない事が第一です。一歩下がって観察し、自分の言葉で、いっどこで、何が起ったかを具体的に記録しておく、対応策も考えやすいのです。

認知症の人は自分の障害の補い方を覚える事はできません。障害を理解し、温く見守り適切な援助をする事がとても大切です。

社会福祉法人あと会
認知症委員会

ご利用者の作品

ふかわ・くにくさの「美術講座」



ふかわ・くにくさでは月に一度の陶芸教室を開いており、多くの参加者が集まる人気の講座となっています。ご利用者のひとり藤本昇さんは自信作を嬉しそうに披露してくださいました。「美術講座」はこの他月に2回、書の教室も開催しています。



スウェーデン 研修報告

デイサービスセンターくにくさ
大久保 貴志

スウェーデン研修で一番私を感じたことは、世界はともかく言葉もたくさんあるけれど、どこでも心は一つということ。言葉だけではお互いわかりあえないことがよくありましたが、言葉がわからなくてもコミュニケーションができるということ。命も同じでその人がその人らしく人生を送られるようにご本人中心でケアを行っているということの広さをとても感じた研修でした。

編集後記

今夏は記録的な猛暑が続き、健康管理が難しかったと思います。猛暑が終わり、朝晩が寒いほど涼しくなり、夏の疲れが出て体調を崩す方がいらつ

今号では認知症に関するお話を掲載しました。少子高齢化が急速に進み、65歳の10人に1人、85歳以上の4人に1人、200万人が認知症高齢者である現代において、認知症高齢者が400万人に到達するのにも遠い将来ではありません。地域の皆さまが認知症を理解して見守る人を一人でも増やし、安心して地域で暮らせる町づくりの取り組みとして認知症サポーター100万人キャラバンが全国的に展開されています。小さいお子様から高齢者の方、たくさんの方がサポーターとなつて、普段から挨拶や声かけ等をするお付き合いを大切にしながら皆さまにとって温かく優しい地域づくりを目指してまいります。

行事予定	十一月 クリスマス会 もちつき
十二月 元日祝賀会 鏡開き	三月 ひな祭り
一月 節分	

毎月ショッピング、コンサート、誕生日会を行っています。また地域の方を対象に「転ばぬ会」を開催しています。